

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	東京都千代田区岩本町 2-10-12
園名	岩本町ちとせ保育園 0歳児

1. 活動のテーマ

<テーマ>

様々な楽器や音に触れる事を楽しもう

<テーマの設定理由>

0歳児用の玩具で音が鳴る物を好んで遊ぶ様子があった。発達や月齢に合わせて楽器を用意し、楽しめるようにする。また、日常の他の遊びや生活の中でも音を意識できるように工夫した。

2. 活動スケジュール

- 4月 玩具のなかの音の鳴るもの(はがためやサウンド玩具など)を楽しむ
6月 てづくりマラカス、鈴などの揺らして音が鳴る楽器に触れてみる
新聞紙遊びの中で音が鳴る事に気付き喜ぶ
8月 言葉やベビーサインで聞こえた音を伝えてくるようになる(例 救急車などの)
動物の鳴き声などに興味をもつ
9月 廃材を組み合わせて音を奏でることを楽しむ
11月 太鼓などの楽器に触れて音を鳴らす事を楽しむ

夏ごろから通年

- ・リズム遊びを通して音楽(音楽を聞き、どのような動きなのか身体で表現する楽しさを感じる)
- ・歌に親しみをもち、保育士と一緒に歌うことを楽しむ

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

サウンド玩具、ガラガラ、はがため

楽器(鈴、タンバリン、マラカス、ウインドチャイム、ベルハーモニー、ミュージック・ポン・プー、ミュージックパット、ウッドシェイカー、ハンドドラム、トライアングル)

廃材(新聞紙、ボウル、ラップの芯、缶、ビーズ、空き箱、段ボール、RIボトル、書類入れ、ビーズ、チェーン など)

動物型クリアブロック

ピアノ、CD 等音源

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・ はがためやサウンドトイなど0歳児にあった玩具で音の鳴る物を用意し遊んでみる
- ・ 保育士と一緒に触れ合い遊びを楽しむ
- ・ ピアノやCDの音楽に合わせて鈴など揺らして音が鳴る楽器に触れてみる
- ・ 新聞紙遊びを行う
- ・ ブロック遊びで、動物の鳴き声を流しイメージをもって遊ぶ
- ・ 廃材遊びを行う
- ・ 太鼓やサウンドチャイムなどのさまざまな楽器に触れて音を鳴らす事を楽しむ
- ・ 手作りおもちゃで遊ぶ
- ・ 保育士を真似てリズムに参加し音楽に合わせて身体を動かすことを楽しむ
- ・ 5月頃にグループタイムをはじめて季節の歌を親しめるように参加する。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・ 楽器遊びは発達に合わせて少しずつ使うものを増やしたり変更していく。最初は使い方が分からず口に運んでしまったりする様子もあったが音が鳴ることを発見すると鳴らして楽しむようになる。

最初は揺らすなど簡単な動作でできるもの(鈴など)から行い、押す、叩くなど少し複雑な動きが必要な物や道具がふたつあるもの(太鼓、トライアングルなど)を行う。

ピアノや音源をかけて行くと、夏前はあまり気にせず楽器演奏をしていたが秋冬頃になると音楽に合わせて演奏するような様子がある。(例 おもちゃのチャチャチャのチャチャチャに合わせて楽器を鳴らす)

冬頃になるとなじみのある歌だど歌を口ずさみながら楽しめるようになった。

・ 子どもの様子を見て手作り玩具を作成した。ビーズなどを入れたマラカスや夏は波の音をイメージしたもの、夏祭りの後は段ボールの太鼓をつくり季節を感じられるような遊びを取り入れた。

・ 触れ合い遊びでは保育士に身体を触られると喜び、スキンシップを楽しむ

・ 0歳児だけで楽しむのは少し難しいなと感じた物は幼児クラスの児と一緒に楽しむようにして音を鳴らしてもらい、一緒にやってもらうなどをして楽しんだ。

・ 新聞紙遊びでは破いたり丸めて遊ぶなかで音が鳴ることに気付き不思議そうにしていた(6月頃)。月齢があがり2月頃再度行くと「びりびり」「じゃー」など音を言葉で表現しながら遊ぶ様子があった。

・ 動物の鳴き声に興味を持つ様子があったのでクリアの動物積み木に合わせて泣き声をあてて遊ぶとより興味をもって遊ぶ様子があった。その後絵本や生活場面で動物を見つけると鳴き声を真似たりする様子があった。

- ・廃材遊びでは普段さまざまな素材に触れたり空き箱などへのチェーンの出し入れを楽しむ様子があるのだが、そのなかで物と物を合わせることで音が鳴ることに気付く。→ボウルなど音の響きが良い物を廃材の中に入れてみるとチェーンを入れて音がなることに気付く。するとそばにあったラップの芯でボウルを叩いて太鼓のように見立てて遊んでいた。
- ・リズムでは歩行が始まった時期から少しずつ始める。少しずつ音を増やして混乱なく進めるようにした。通年を通して楽しんだので3月には保育士の手本が無くても音をきいてこの動きと自分で考えて行う。
- ・歌を歌う活動では最初は振付を真似たり揺れて楽しむ様子があり、秋ごろから言葉が盛んになったことで口ずさんで楽しめるようになった。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・0歳児でも、様々な音に親しみ、楽しめるように工夫しながら行ったことで、子どもたちが音に気づき、興味を持っていろいろな遊びを楽しんでいた。
- ・通年を通して同じ活動を行ったことで子ども達の成長に合わせて遊び方の変化を展開などが変わっていく過程を感じる事が出来た。言葉が出ない時期、出る時期の変化は著しく、言葉を使い「きこえた」「できた」ことを伝えてくる様子があった。
- ・手作りの楽器玩具では子どもの興味にあわせて制作したことで興味を持ち、より楽しむ様子があった。既製品とは違った親しみのある素材でつくったことで導入として楽しむには良かったのではないかと思う。
- ・まだ使用が難しい楽器も異年齢での関わりを通して聞いたり見たりすることで楽しむことが出来た。異年齢児との関わりの時間にも繋がった。

